

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200202		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム 小春の家		
所在地	〒822-1402 福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地		Tel 0947-32-7889
自己評価作成日	平成30年04月01日	評価結果確定日	平成30年05月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成30年05月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旬の食材を使用した食事を提供し、和食、洋食、中華料理等様々な食事を楽しんで頂ける様に出来るだけ努力をしている。又個々の希望を出来るだけ叶えるようにしている。特に外出に力を地域の祭りや季節花見等の行事を設ける事で季節感を味わって頂けるように努めている。日常日々の中でも散歩や買い物を取り入れ地域と共に生活が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田川の象徴、香春岳を眺望できる緑豊かな広い敷地の中に、開設15年目を迎える2ユニットのグループホーム「小春の家」がある。鶯が鳴き、猫が行き来する庭や近隣を散策したり、室内では将棋や歌、職員と一緒に創作活動を楽しむ等、利用者が自分のペースでゆったりと暮らしている。提携医療機関の医師やかかりつけ医、看護師、ベテラン職員を中心としたチームワークのとれた介護職員との連携で、安心の医療体制が整っている。季節の花が生けられ、隅々まで清掃の行き届いた気持ちの良い生活環境、利用者の個々に応じた介護サービス、調理上手な職員が旬の食材を使って作る美味しい食事、リフト車を使って積極的に行う外出、そして、利用者本位の自由な暮らしの支援に取り組み、長い入居年数に繋がり、家族の信頼も大きい、グループホーム「小春の家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、いつでも確認できるように玄関に掲げている。ミーティングの際に振り返り、皆で実践に向け取り組んでいる。	玄関に理念を大きく掲げ、朝礼やミーティング時に、理念について振り返る機会を設け、共有に努めている。管理者と職員は、地域に根ざしたサービス、利用者の人格を尊重し、利用者個々に応じた介護サービスの提供に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会を開催した際に近隣の保育園児によるお遊戯会等を行って頂き、又餅つきを行った際には近隣の方々に参加を促す等の取り組みを行っています。	12月に開催した家族会の時に、近隣の保育園児を招いて交流し、楽しい時間を過ごしている。また、ホームの餅つきには、地域の子どもが参加したり、搗いた餅を近所に配る等、少しずつ地域との繋がりが広がるよう、努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の訪問等が少なく、あまり生かしていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し施設を状況及び取組、行事等を報告し参加者の意見等を聞いている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催している。香春町役場職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者の参加があり、ホームの取組、行事、利用者の状況について報告を行い、意見や情報交換を行っている。	参加委員の増員を図り、関係を広げていく中で、情報や意見を収集し、サービスの向上に活かしていく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡を取り日々のケアの内容やより良い介護が提供できるように市町村を意見を聞く事で協力関係は築いている。	運営推進会議に、香春町役場職員、地域包括支援センター職員の参加があり、情報交換を行いながら協力関係を築いている。また、空き状況や事故の報告を行い、アドバイスや情報提供を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所にマニュアルがありそれをスタッフ一同で把握をする事で身体拘束しないようにしている。	職員会議時に、マニュアルを基に改めて、禁止となる具体的な行為の確認や業務中に気づいた事、気になる事等を話し合い、職員間の共通理解に努めている。また、言葉掛けや対応についても振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング等の時間を活用し虐待がないように管理者、スタッフが話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所にマニュアルや制度についての説明分を置いており職員が把握できるように取り組んでいる。	権利擁護の制度に関するパンフレットや資料を整備し、利用者や家族から相談があれば、制度についての説明や申請手続きが出来るよう支援に取り組み、利用者の権利や財産が被害を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容のすべてを説明し不明点については解りやすい説明を行って理解と納得を得た上で契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等に面談を行い利用者及びその家族の要望を聞き、介護計画に反映できるように努めている。	12月に開催した家族会には、5家族10名程の参加があり、手作りの食事を囲んで親睦を深め、面会時の声掛けや電話をかける等の取組と併せて、家族が意見や要望を言いやすい関係を築いている。出された意見や要望は出来る限り迅速に反映させている。	月1回のホーム便りの発行を復活し、利用者の健康状態や暮らしぶりを家族に伝える事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングの時間を設けいつでも経営に対する意見や要望を話せる場を設けており、出て意見や要望については経営側で熟知し経営へ反映させている。	毎日の申し送りやミーティングの中で、職員が意見や要望、気付き等を出し合い、出来る事から解決に向けて取り組んでいる。内容は申し送りノートに記録し、職員間で情報の共有に努めている。また、職員は、利用者の気になる事や、心配事を管理者に相談し、早期解決に向けて努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との交流の時間が多く有りその際個々の努力ややる気把握し向上心を持って働けるように環境や条件等の設備ができています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別、資格の制限がなくそれを基に排除した事がない。就職後も自己表現や権利を守っている。	管理者は、職員一人ひとりの能力や特技を把握し、適材適所の配置に取り組み、職員が生き生きと楽しく働ける職場を目指している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人物本位で採用している。また、職員の処遇改善にも取り組み、職員が長く働き続けられるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加をし、その内容を申し送りやミーティング等で報告して共有することで職員に対して人権教育や啓発活動はできている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で話し合っている。特に、言葉遣いや対応などで気になることは注意し合い、馴染みの関係の中でも、常に利用者を敬う気持ちを持ってケアに取り組むよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修への参加を促し、ミーティング等で報告をして頂く事で全スタッフ介護技術の向上へ努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者が研修を行っており、その研修に参加することで情報交換ができサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に要望等を聞き安心して過ごす事ができるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する際に御家族の話や要望を聞き信頼し合える関係を築けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人とその家族の話と医療機関の情報等を基にプランを立てる事でその時必要な支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の暮らしの知恵等を教わりながら、一緒に食事を作ったりと暮らしを共にする関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや外出の際の付き添いを促しなら面会に来られた際に他者を気にすることなくゆっくり過ごせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事への参加を促し、電話の貸し出し等で親密な関係を保つ事ができるように努めている。	利用者の親しい友人や知人の面会があり、居心地良く過ごせるよう配慮し、利用者にとって大切な関係が継続出来るよう努めている。また、病院受診の帰りに利用者の行きたい場所に立ち寄ったり、1週間に1回、家族と電話で話す事を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常会話等にスタッフが入りコミュニケーションの図りやすい環境づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等を受けた際の対応はいつでもできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、個々の思い、希望を聞きケアを行っている。意思の疎通が難しい場合は本人本位になって検討している。	職員は利用者信頼関係を築き、利用者の思いや意向を聴き取り、一人ひとりに応じた暮らし、自己選択、自己決定の出来る暮らしを大切に支援している。意思を表す事が困難な利用者には、職員が寄り添い、話しかけ、その表情から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境や本人の性格、馴染みのもの等を本人や家族に聞き希望に沿った生活を送って頂けるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方を記録し、日々の申し送りで共有し状況把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで意見やアイデアを出し計画作成とモニタリングを行っている。	利用者、家族の意見や要望を基に、日々の申し送りやカンファレンスで職員の意見を収集し、看護師、主治医の意見を探り入れた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、ケアチェック表で日々の状態を確認し、定期的にモニタリングを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し一人ひとりの毎日の状態を記録へ残し申し送りで報告を行い職員間での情報共有を行っている。又申し送りの際に出た気づき等を計画の見直し、介護計画へ役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護スタッフや看護師等様々な立場より観察をし情報共有を行いサービスの向上に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある資源を管理者、スタッフが把握する事で利用者一人ひとりに合わせて活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に協力医療機関があるが他医療機関への受診も行っている。本人の希望や家族の希望を聞いて受診を行っている。	入居時に希望を聴いて主治医を決定し、現在はほとんどの利用者がホーム提携医の往診を受けている。他科受診については、管理者や職員が同行し、結果を家族に報告している。提携医による往診と看護職、介護職の連携で、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフは日常の関わりの中での体調の変化等の気づきを看護師へ報告し適切なケアが出来る様に看護師と連携を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には入院先の医療機関の医師、看護師へ情報を提供して入院中の状況を共有する事で退院後のより良いケアができるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての意向を伺い協力医療機関、看護師とで連携を図りチーム支援が出来るように努めている。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、利用者、家族の意向を聴いている。利用者の重度化に伴い、家族と密に話し合い、主治医、看護師、介護職員で方針を共有し、利用者が安心して終末期を過ごすよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、いつでも確認ができるようにすぐに取り出せるように心がけている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており食料や飲料水等の非常時用品を確保している。又消防署と協力して災害時の対応、動作の確認を行っている。	通報装置の故障のため、昨年度は避難訓練を実施する事が出来なかった。マニュアルを作成し、特に2階の利用者の避難方法については消防署の指示により、火元から遠い居室で待機する事を確認している。災害時に備えて非常食、飲料水を備蓄している。	新しい通報装置が設置できたので、定期的に避難訓練を実施し、非常時に慌てないよう、通報や避難の方法を身に付ける事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者がプライバシー保護の説明を行いスタッフ全員が把握し個々に応じたケアを心がけている。	利用者のプライバシーを尊重した介護の在り方を職員間で話し合い、利用者それぞれの思いや個性、生活習慣に配慮したケアの実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、情報が漏れない体制を確立させている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で本人の希望や思い等を伝えやすい環境作りを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日々の支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度理容師の訪問があり一人ひとりの希望に合わせて身だしなみを整えて頂いている。又毎朝スタッフが整容を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作成する際に利用者の意見を聞き入れメニューを作成している。また個々ができる事をスタッフ促して行って頂いている。	利用者の好みや苦手な物を聴いて献立作りに反映し、旬の食材をふんだんに使った彩りの良い美味しい食事を提供している。箸の筋取りや土筆の袴取り等を、利用者の力に応じて一緒に行っている。また、職員が1名、検食を兼ねて同じ食事を食べ、会話が弾んで楽しい雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一日1600cal、水分は定時に200cc摂取して頂き、一人ひとりの状態に応じた食事や水分の形状で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、見守りの基行って頂き介助を要する方はスタッフにてケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	Kパンツの方もトイレでの排泄を促し排泄パターンを把握する事で自立に向かた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、日中はほとんどの利用者がトイレでの排泄に取り組んでいる。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌や植物繊維を多く取り入れた食事を提供しなるべく薬を使用しないように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者をそれぞれの希望に応じて入浴して頂いてる。介助が必要とする方に関しては、週3回を目安にして入浴を行って頂いてる。	夏場は週3回、それ以外は週2回の入浴を実施している。入浴を拒む利用者には、時間を置いたり、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴の支援を行っている。また、介助を必要としない利用者が、「入りたい」と言われたら、希望に沿って入って貰っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて昼寝の時間を調整して、雑音等の調整を行う事で一人ひとり自分ペースで休息を取れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問がありスタッフに対して薬の説明を行って頂く事で薬の理解ができ、正しい服薬が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに行事や外出を行ったり歌の好きな方には、歌っていただいたり、一人ひとりの趣味に対応出来、気分転換が図れる様に心掛けています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった時は、日程を合わせスタッフ同伴のもとに行っている。	車椅子対応の車両を購入し、季節毎の花見を始め、積極的に外出の支援に取り組んでいる。また、天気の良い日には広い敷地を利用した外気浴や近隣への散歩を行い、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に合わせ、自己にて管理ができる方は、所持して頂き使う際にはスタッフも確認し家族への報告を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や手紙のやり取りは自己にて行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた空間作りを利用者と一緒で作成し、気温や配置、音の大きさ等に気を付け居心地よく過ごす事ができるようにしている。	香春岳を望む窓際の畳のスペースに腰掛けて将棋を指す利用者や職員とソファーに座り歌を口遊む利用者、モップで床を拭く利用者等、一人ひとりが好きに過ごす自由な空間である。季節の花を生け、掃除の行き届いた、清潔で気持ちの良い生活環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではTV鑑賞や読書、ボール投げ等、自由に過ごせる環境づくりや自室でも、気分に合わせて生活ができるように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	親しみの物を持ち込んで頂く事で安心して過ごせるように工夫を行っている。	利用者の馴染みの家具や大切な物、また、本人の希望で仏壇や冷蔵庫等を持ち込んで貰っている。清掃や換気を頻繁に行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁のほとんどには手すりがついており、手すりを使った自立歩行が出来るように手すりを周りには物を置かない等の取り組みを行っている。		